

2019年度 健診事業のあり方研究会

活動計画発表資料

2019年6月26日(水)
於：電設健保会館 5階 講堂

本日おはなしする内容

1. 研究会プロフィール

研究会名

参加健保数、参加者数、参加者の特徴

2. 背景・現状

3. 目的・目標

4. 活動計画

研究会プロフィール

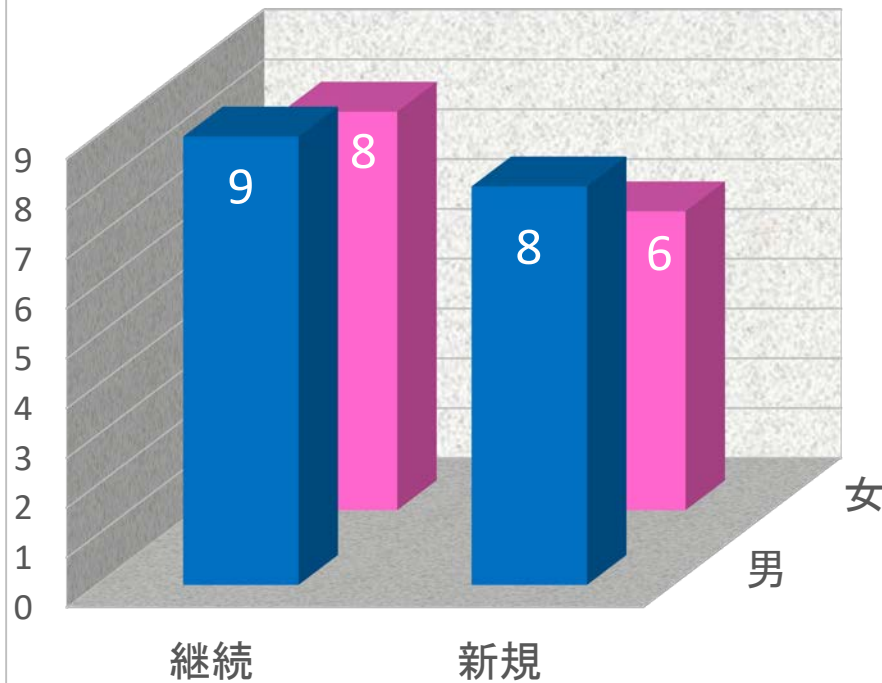
研究会名

健診事業のあり方研究会

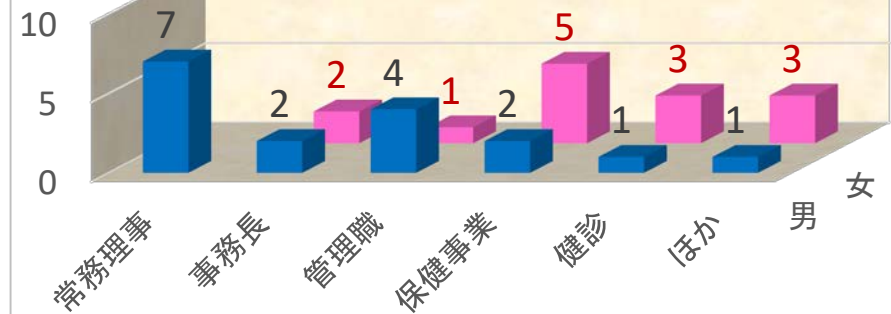
参加健保数

27健保31名、アトバイザ-2名

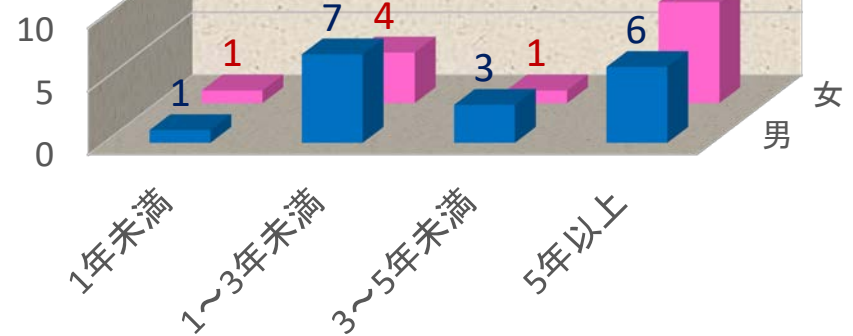
メンバーの人員構成



メンバーの担当業務



経験年数



2018年度までの活動の振り返り

フェーズ1

「健診ガイド」作成 = Learning Phase **成果物**

フェーズ2

「スマート健診」プログラム構築 / 事業主・健診機関とのコラボによる実施体制追究 **成果物**

フェーズ3

事業主・健診機関とのコラボヘルスの構築 / 健診結果に対する適切なフォロー・管理体制追究

フェーズ4

・ツールのブラッシュアップ → 仕様書 **成果物**
・健診機関を活用して費用対効果の高い健診事業を行えるスキーム構築

フェーズ5

・「ヘルスリテラシー向上」に向けた取り組み
・健診事業の課題の改善を目指した活発な情報交換 **成果物**

フェーズ6

・被扶養者健診受診率向上策
→ 推進する会加盟健保への統計調査 **成果物**
・がん検診・健診に伴う個人情報の扱いに着手

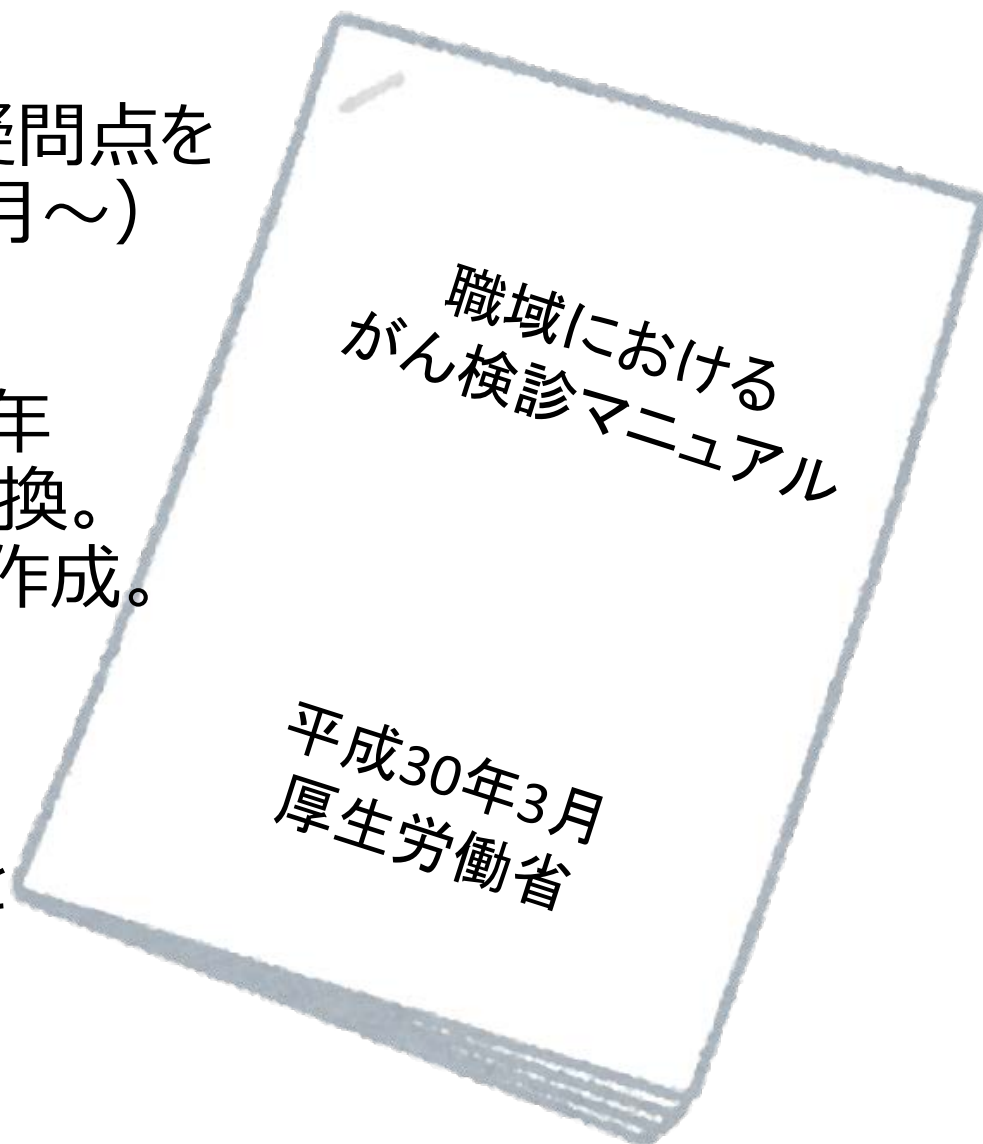
保険者機能を推進する会全国大会で報告

被扶養者健診の受診率が高い健保の取り組みの中で、
受診率との相関が確認できた項目は・・・

- ①外部委託をしている（正の相関）
- ②被扶養者に直接案内している（正の相関）
- ③Web申し込みがある（正の相関）
- ④メールで受診勧奨している（正の相関）
- ⑤がん検診を無料で受診できる（正の相関）
- ⑥申込期間・受診期間が長い（負の相関）
- ⑦受診勧奨が多いと受診率は伸びる(飽和していない)
（⑦は追加解析で確認）

2018年度活動 がん検診マニュアルの研究に着手

1. 各自読み込みを行い、疑問点をまとめる。(2018年11月～)
2. 第9回研究会(2018年12月実施)で、情報交換。疑問点を整理し質問集作成。
3. 健保連保健部宛に、マニュアルに関する講演を依頼し、質疑応答の機会も頂く。



2018年度振り返りと2019年

1. 振り返り

- ①健診受診率向上に関して、研究会内部にとどまらず、広く情報収集した結果、統計的に有効な項目がわかった。
- ②未受診の理由を直接問うアンケートは、やめた方が良い。
→むしろ受診決断をあと押しした項目をさぐるべき
- ③統計的に導き出された結果にはそれなりの根拠がある。

2. 今後（2019年度活動方針）

- ①研究に着手したがん検診について更に研究。
（我が国・企業健保にとって喫緊の課題）
- ②活動の軸足を移動。
「受診率向上策」⇒「がん対策」
「理想の健康診断とは何か」
- ③事業主コラボのあり方や事業の理想も追求。
- ④昨年の健診実態調査の経年比較調査も検討。

2019年度研究テーマ

テーマ1：企業健保におけるがん検診のあり方

- 『職域におけるがん検診に関するマニュアル』を拠り所とし、企業健保が行う任意型がん検診のあるべき姿を追求する
- 保険者として果たすべき役割を学ぶ
最新情報(がん対策の実態)・一般的な知識の習得
望ましい検査の運用
(データの取り扱い 及びデータ管理のあり方、
検診データ受け取りから受診勧奨実施までのPDCA、
適正な再検率の見極め)

テーマ2：被扶養者健診受診率向上策の検証

- 2018年度に実施した加入健保実態調査の結果を活用し、各健保が受診率をどのように改善してきたか、追跡調査を行う

研究会「健診事業」ビジョン

費用対効果の高い健診を展開すると共に

(→ 受診率向上策、最適な受診項目の検討、好事例の横展開)

健診結果に対し適切な対応を実施することで、

(→ (再)受診促進、健診結果の効果的なフィードバック)

被保険者と家族の健康維持・増進を促進し、

(→ 健診結果を起点とし、ヘルスリテラシーを向上させる)

将来の医療費の抑制に寄与する。

(→ 新しいがん対策の提案、生活習慣病とその予備軍の根絶)

今年度進捗 まず、先生の講演を受けました

第2回研究会
(2019年5月28日)
アバザ-高橋先生の講演を実施

がん検診の基礎知識 企業健保への期待

社会と健康研究センター検診研究部
がん対策情報センターがん医療支援部

高橋宏和

本日のポイント

- がん検診には利益と不利益がある
- がん検診は科学的根拠に基づく実施が推奨されている
- がん検診は精度管理により質が保たれる
- 今後は職域のがん検診への取組がより重要となる



国立研究開発法人

国立がん研究センター

National Cancer Center Japan

年間活動スケジュール(予定)

月	日	曜	会場	実施案	
2018年度					
3	27	水	神田	マニュアルに関する講演で確認できた課題を整理①	
2019年度					
4	上旬	-		メンバー決定後、研究テーマの希望を事前に聴きとる②	
4	18	木	神田	年間活動計画の説明と、事前提出した希望テーマの共有 →①・②を先生に提出	
5	28	火	中野	★講演「基礎知識習得、企業健保への期待」(仮) + 質疑応答	
6	17	月	中野	講演振り返り、疑問点を整理して質問事項として取りまとめる	
7	29	月	中野	★質問事項への回答	
8					
9	9	月	中野	★講演「職域と地域のがん検診の運用比較」(仮) + 質疑応答	
10	28	月	中野	下期以降の活動(案)として、	
11	18	月	中野	全国大会 (11月11日) での発表 ★講演「がん対策の国際比較」(検診運用・データ管理の面で) (仮) 企業におけるがん検診運用モデルの作成 被扶養者健診受診率向上策の追跡調査と結果検証 アドバイザーからのリクエストによる情報交換 (★はアドバイザー参加日。講演等を予定) 推進する会会員健保の健診実施実態調査	
12	16	月	中野		★
1	20	月	中野		
2	17	月	中野		★
3	16	月	中野		

**ご清聴、ありがとう
ございました！**